



平成 31 年 4 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社カーチスホールディングス
(コード番号 7602 東証第 2 部)
代表者名 取締役兼代表執行役社長 大庭 寿一
問合せ先 経営企画部部長 北田 隆博
(TEL 03-3239-3185)

特別損失（減損損失）の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は経営改善策の一環として固定資産の減損損失を計上し、また、最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 10 月 24 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上

当第 4 四半期連結累計期間において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる一部の店舗等の減損処理を行い、201 百万円を特別損失として計上しております。

2. 業績予想数値の修正

平成 31 年 3 月期連結業績予想数値の修正(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 30 年 10 月 24 日発表)	百万円 22,500	百万円 50	百万円 75	百万円 △150	円 銭 △7.57
今回修正 (B)	20,525	△150	△120	△375	△18.94
増減額 (B - A)	△1,975	△200	△195	△225	
増減率 (%)	△8.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 30 年 3 月期)	24,440	△84	△68	△150	△7.59

3. 修正の理由

当期は国内事業における脱オークションをきっかけ利益率の高い中古車販売に特化した営業施策へ転換を図り、生産性の向上及び効率性の追求をしてまいりました。その結果、第 2 四半期より徐々にその効果があらわれ、顧客販売においては昨年を上回る販売台数となり、概ね予想通りの売上進捗となる見込であり、下期においては利益面で大幅な改善となり黒字計上となる見込です。

しかしながら、海外におけるグローバルインターネットプラットフォームでの輸出販売の売上台数が想定の 70%程度となりました。特に、当期より始めた左ハンドル圏諸外国へ向けた新規プロモーションやシステム改良にかけた経費を上回る利益が確保できなかったことから、第 1 四半期での赤字を一掃するまでには至りませんでした。また、上記 1 の通り「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる一部の店舗およびシステム等の固定資産を、当期末において特別損失として計上することとなり、前回発表した各利益の業績予想を大幅に下回る見込となりました。

	通期 (4月～3月)	上期 (4月～9月)	前年同期比 (4月～9月)	下期 (10月～3月)	前年同期比 (10月～3月)
売上高	百万円 20,525	百万円 10,486	百万円 △1,770	百万円 10,039	百万円 △2,146
営業利益	△150	△199	△83	49	+17
経常利益	△120	△182	△76	62	+24
売上総利益率	20.3%	20.0%	△0.1%	20.6%	+1.0%

今後、国内事業においては、引き続き中古車販売に特化し、大型販売店の出展戦略やA Iの活用などにより、より一層の生産性の向上と利益率の高い小売販売の強化を進めてまいります。

海外事業においては、平成30年10月26日付当社ニュースリリースでお知らせいたしました新華錦集団有限公司との战略合作意向書の締結、ならびに平成31年3月26日付プレスリリースでお知らせいたしました新華錦集団有限公司のグループ会社である山東新華錦国際株式会社と中国国内における合弁会社設立にむけた基本合意書の締結により中国での自動車等の輸出入事業について具体的な協議をすすめ、中古車を中国国内から海外へ輸出する新たな物流事業へ参入し、流通システムの構築、グローバルインターネットプラットフォーム等のシステム改修および開発を行う予定です。

また、従来の日本国内からの輸出事業についても一層強化をしてまいります。

(注) 上記に記載いたしました予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、既知、未知のリスクや不確定要素の要因により、実際の業績は上記予想と異なる可能性があります。

以上